
悪魔のタペストリーと首掛け十字

隆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪魔のタペストリーと首掛け十字

【Nコード】

N7355Z

【作者名】

薩

【あらすじ】

個人で冊子に投稿します。

深夜、僕は眠れないのでTVを点けていました。

別に、世間の動き云々に興味など無いので、ただ、ボーっとしていたのです。

それだけ。

他人が死のうが、生きようが、そんなのどうでもよくて、別に・・・どうでもいいんだ。

一度でいいから、一日中日が昇らなかつたり、月が血の様に真っ赤になつたりしないかな？

とか、大人からみたらくだらないことを考えている方が、ずっと楽しい。

それに、『ああ、今ここにいて確かに存在して、僕は考えている』
『つてことを、

実感できる。

それが、何よりうれしい。

数年前、母から、綺麗なロザリオをもらいました。水晶でできたきれいな首掛け十字。

神様なんてちつとも信じていない僕でしたが、綺麗だなとはおもいました。

神様なんか信じていないけど、悪魔は実在するのかもしれない。だって、悪魔って負の感情そのものだと思うんですよ、僕は。

でも、それに中てられた人間のほうが、もっとずつーと、怖いんだよね。

人間ってほら、馬鹿だから。
救いなんて求めちゃう弱い存在なんだよね。
でも、死ねないんだよね？
空しいよね。

(後書き)

ほんと、今日は恋人たちの聖夜なんて言ってるけども、その人の一体何をどこまで知ってるんですか？って話だよね。

恋人だろうがなんだろうが、人間なんて信じる価値無いよ。

犬や猫みたいな動物の本能のほうが、ずっと、正直で・・・ほら、嘘はつかないからね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7355z/>

悪魔のタペストリーと首掛け十字

2011年12月24日12時49分発行